

教科書編集部便り

世代を超えて ―長年掲載されている教材について―

小社「国語」教科書には、親子とともに学んだり、教材を学んだ子どもが大きくなり先生になって教えていたりして、世代を超えて多くの人々に愛され続けている教材がたくさんあります。それらは、「読むこと」の力をつけ、読書の意欲を喚起させる優れた学習材であると同時に、学習者の人間形成にもかかわり、根底で「生きる力」を育てる存在でもあると自負しています。

さて、では現行の教科書教材でいちばん長く掲載されているのはなんでしょう。

平成二十（二〇〇八）年四月現在、小社教科書で三十年以上に渡って掲載されている教材は十三あります。

昭和四十六（一九七二）年、「くじらぐも」「たんぼぼのちえ」「白いぼうし」「ごんぎつね」「やまなし」が初めて光村図書の教科書に掲載されました。

作家中川李枝子先生は、「くじらぐも」を執筆されるにあたって、「何としても一年生にいやがられない、苦痛を与えない、学校きらいにさせない『楽しい話』を書かなくてはならないと肝に銘じました。」（小社学習指導書「一年下より」と強い決意をもって臨まれたそうです。そうして完成された「くじらぐも」は、三十七年間変わらず、全国の教室や家庭で「天までとどけ、一、二、三」という楽しい声を響かせ続けています。

また、昭和四十（一九六五）年、「白い馬」という題名の作品が掲載されました。「白い馬」は、昭和四十九（一九七四）年度版教科書の改訂時に大塚勇三先生が再話し直し、表現、用語にいたるまで克明に

検討を加え、題名を改めて掲載されました。「スーホの白い馬」です。

「白い馬」の掲載にあたっては次のような願いがこめられました。「児童の読む物語の多くは、日本、欧米のものである。（中略）この物語によって、草原の国モンゴルにも、変わりのない人と動物の愛情が息づいていることをわからせることができる。」（昭和四十年版小社学習指導書「二年より」）

今でも日本の子どもは多くは、この作品で初めてモンゴルという国や馬頭琴を知ります。そして、物語によって育まれた親しみは一生涯のものです。

以上のことから、いちばん長く掲載されている教材は何かといえば、「くじらぐも」「たんぼぼのちえ」「白いぼうし」「ごんぎつね」「やまなし」というのが正解ともいえますし、「スーホの白い馬」が正解ということもできるかと思えます。

ちょうど今、新しい学習指導要領が告示され、これから教科書改訂の作業が本格化していきます。新版教科書がお手元に届くのは平成二十三年四月ということになります。それまでの三年間、これらの教材とともに、いっそうよい授業がなされることを心より願っています。

昭和四十（一九六五）年初出「白い馬」昭和四十九（一九七四）年より「スーホの白い馬」
昭和四十六（一九七二）年初出「くじらぐも」「たんぼぼのちえ」「白いぼうし」「ごんぎつね」「やまなし」
昭和四十九（一九七四）年初出「ありの行列」
昭和五十二（一九七七）年初出「じどう車のなかま」昭和五十一（一九七五）年より「じどう車くらべ」「たぬきの乗車」「スイミー」
「モチモチの木」「二つの花」「わらぐつの中の神様」

広報部便り

研究会のご案内

■愛知教育大学附属名古屋小学校
第55回 小学校教育研究協議会

開催日 平成二十年六月四日（水）

テーマ 「未来をたくましく生き抜くことができる子」の育成をめざして【最終年次】

内容 公開授業（各教科、英語活動、帰国児童教育）
研究発表協議会（各教科、帰国児童教育）
英語活動情報交換会
講演「活動主義から学力形成主義へ ―授業の改善策―」

日本教育技術学会理事・名誉会長
千葉経済大学短期学部講師

野口芳宏氏

連絡先

愛知教育大学附属名古屋小学校
〒四六二・〇〇四七 名古屋市中区大幸南二丁目二二番
TEL 〇五二（七三二）四六一六
FAX 〇五二（七三二）三六九〇
<http://www.np.aichi-edu.ac.jp/>

編集後記

新しい学習指導要領が告示されました。今回の特集では、三人の先生方に、鼎談という形で、その新しい学習指導要領を読み解いていただきました。

お話しの中にもあったとおり、目に見えて変わった部分もたくさんありますが、根底に流れる基本的な理念は現行の学習指導要領と変わらず、それをさらに具体的に発展させたものになっています。移行期間を経、平成二十三年度からの完全実施に向けて、この新しい学習指導要領をどのように理解し、日々の授業にどう反映させていくのか、学校現場でも議論されることと思いますが、今回の特集がその一助となれば幸いです。

また、弊社ホームページ「光村チャンネル」では、新しい学習指導要領について、「識者による解説」を掲載しています。ぜひご覧ください。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております！

FAX 〇三（三四九三）五四八三
E-mail: kofo@mitsumura-tosho.co.jp

